

特別展「人と動物～考古・民俗資料から～」を開催

平成11年2月20日(土)～3月22日(月・振替休日)



① 須恵器の鳥たち

動物の飾りを持った須恵器は、特殊な用途をもった装飾須恵器として分類されます。鳥は黄泉の国への水先案内の役と考えられます。

(鳥鈕蓋付台付壺 炭焼平14号墳)

平成10年度の可児郷土歴史館特別展として、「人と動物～考古・民俗資料から～」を開催します。

人間はこの地上に現れて以来、絶えず何らかの形で動物と関わりを持って来ました。それには幾つかの目的がありました。

一つには人間が生きていくための食料として、またもう一つには、人間を取り巻く様々な災害を取り除くための厄除けとしてです。更には人間の良きパートナーとしてなど、数え上げたらきりがありません。

そこで本展では東海三県を中心に、発掘調査によって出土した考古資料と、今なお大切に受け継がれている民俗資料の中から動物に関係した物を取り上げます。

今回は、みなさんにも比較的馴染みのある動物として「鳥」、「鹿・牛・馬」、「魚」、「想像上の生き物」などに焦点を当て、それぞれの動物が人間社会の中でどの様な扱われ方をしてきたかを探り、人と動物との関係を再発見していただくという企画です。



② 繪馬

寺社に祈願のために奉納する絵入りの額。生きた馬の代わりに馬の絵を納めたのが始まりです。(岩倉城遺跡)

③ 土馬

8～9世紀に盛行し、生きた馬の形代として水神へ奉納したものと考えられます。



④ 龍頭

仏式においては葬列に使用されていましたが、火葬の広がりと共に姿を消しました。「ジャガシラ」とも呼ばれています。(木製龍頭 仲迫間遺跡)

⑤ 水滴

墨すりの際の必需品。魚をはじめ、亀や人など様々な動物たちの造形が取り入れられています。(元屋敷窯他)



⑥ 古陶器の動物たち

美濃では陶器の装飾絵に身近な動物たちがデザインされています。特に織部には鳥などが、積極的に取り入れられています。

(志野織部向付
土岐市美濃陶磁器歴史館)

⑦ 鏡の獣たち

古墳の副葬品として納められ、鏡の背面には神仙像や龍、虎などの霊獣が鋳出されています。

(三角縁三神三獣鏡
野中古墳)



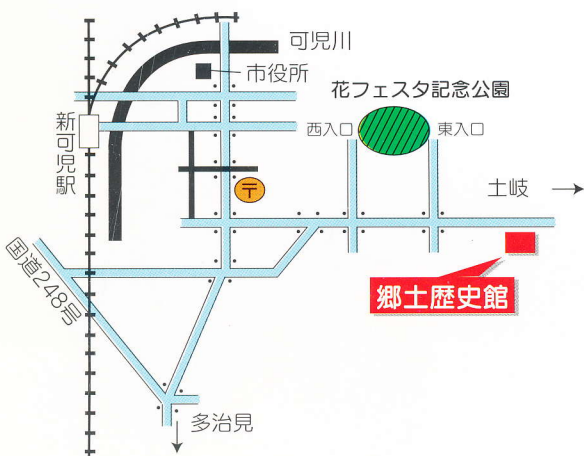


⑧ 狛犬

神社・仏寺等の内衛的魔除けの置物。右が開口する阿音を表現し、左が閉口して咩音を表現しています。
(鉄釉狛犬一対 長洞区)

⑨ 牛頭引札

牛痘種痘法の啓蒙のためにつくられた引札(ちらし)の一種です。
(牛頭引札 内藤記念くすり博物館)



利用案内

休館日 月曜日と祝日の翌日
開館時間 午前9時～午後4時30分
入館料 大人310円、小人70円

可児郷土歴史館

可児市久々1644-1
電話0574-64-0211